

2008 第 7 回 PDC in 玉名市石貫

2008 年 9 月 27 日～28 日

講師: 設楽 清和、野口 慎吾

場所: 石貫第 2 区公民館

参加者: 常富、長瀬、井上、福嶋、波多野、徳永、野口、梅木、麻生、深見、武田、たおだ(波多野さん woofers)

事務局: 山口、赤星

9/27(土)

13:30 ファームステーション庄屋集合

14:00-14:30 オリエンテーション、前回の振り返り

14:30-16:00 講義「土壌」

16:00-16:30 休憩・おやつ

16:30-18:00 講義「土作りの方法」

18:00-20:30 風呂・夕食など

20:30-22:00 講義「コミュニティガーデンのデザインと役割」

9/28(日)

7:00 8:00 農場での作業などの手伝い(希望者のみ)

8:00 9:00 朝食

9:00 10:30 講義「農場デザインの基本」

10:30-11:00 休憩

\*11:00-12:30 講義「庭のデザイン」

12:30-13:30 昼食

\*13:30-15:00 実習「コミュニティガーデンのデザイン」

15:00-15:30 おやつ、振り返り 解散

14:00～

今回初参加のメンバーの紹介

たおださん

- ・ 大学 2 年生
- ・ 小さい頃から農業に関心
- ・ 現在大学でインドネシア語を専攻
- ・ 波多野さんのところで woofers をしている

◎ 今回の講師、野口慎吾さんのお話

■ タイトル「土壌」

[自己紹介]

矢部町、現在の山都町出身、在住

熊本県立大出身

今の活動の至るまでに、

学生時代、ローソン、セブンイレブン、ジョイフルなどでバイトをし、ご飯もそういうところで食べていた。なにか満たされない気持ちをいだきつつも・・・

大学4年の6~10月の時にアメリカの友人をたよって、オーガニック、アグリカルチャーの勉強をしに行く。

青空市場でオーガニックな野菜を扱っているお店にお金は足りないから勉強させてほしいと直談判。

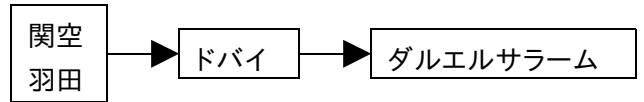
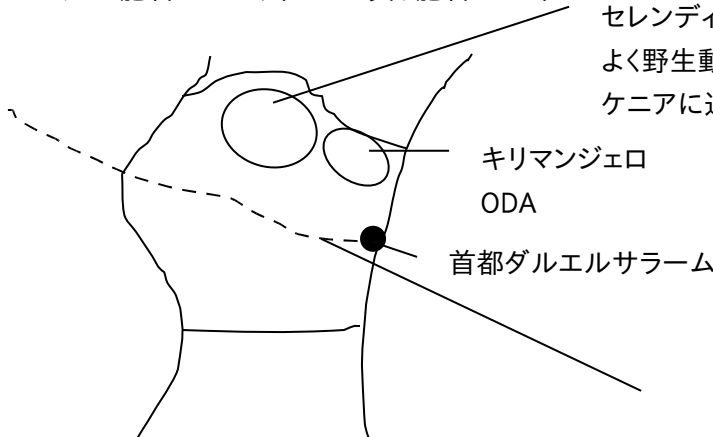
そんな中で出会ったドイツ人に福岡正信知らないのかと言われた。

後々、熊本人でも熊本の西の金子よしのり、東の寺尾と呼ばれる人がいることを知る。

現在、タンザニアで寺尾さんが立ち上げた「地球緑化の会」で緑化の活動にも携わっている。

[タンザニアとはどういう国]

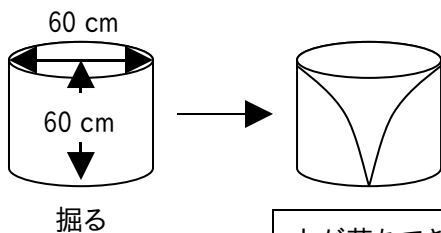
アフリカ 肥料がない、(お金で買う肥料が・・・)



だいぶ近くなった。

「ネリカ米」  
日本が品種改良に20%お金を出した。  
ニューアフリカ米として取り上げる。

Rain season は3か月しかないため水を大切に使う。  
向こうで行われていた植林方法 → かえって良くない



土が落ちてきてコンクリート状になる  
生育が悪い

もともとの奴隷ルート  
↓  
植民地時代に線路を作った  
↓  
木を切り倒した  
↓  
ドドマにはゾウがいなくなった

アメリカから帰ってくると、実家で有機栽培じゃないのに有機表示していた。当時は表示すると売れる時代。矛盾を感じる。

少子高齢化で残った土地を誰が管理するのか？

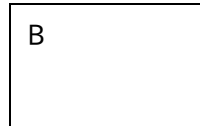
→ みんなで管理する仕組みを作りたい

7～8年前くらいから矢部であいがも米をやっている。

今ではあいがもをやっているのは100軒になっている。

3年くらい前から自分たちでエネルギーを自給しようという動きに

スライド



A、Bを見て、どちらの農法でやりたいか？

徳:連作障害  
深:多様性  
  
講師:  
人間的感性から感じると  
こちらの農法

設:作業しやすそう

草マルチ

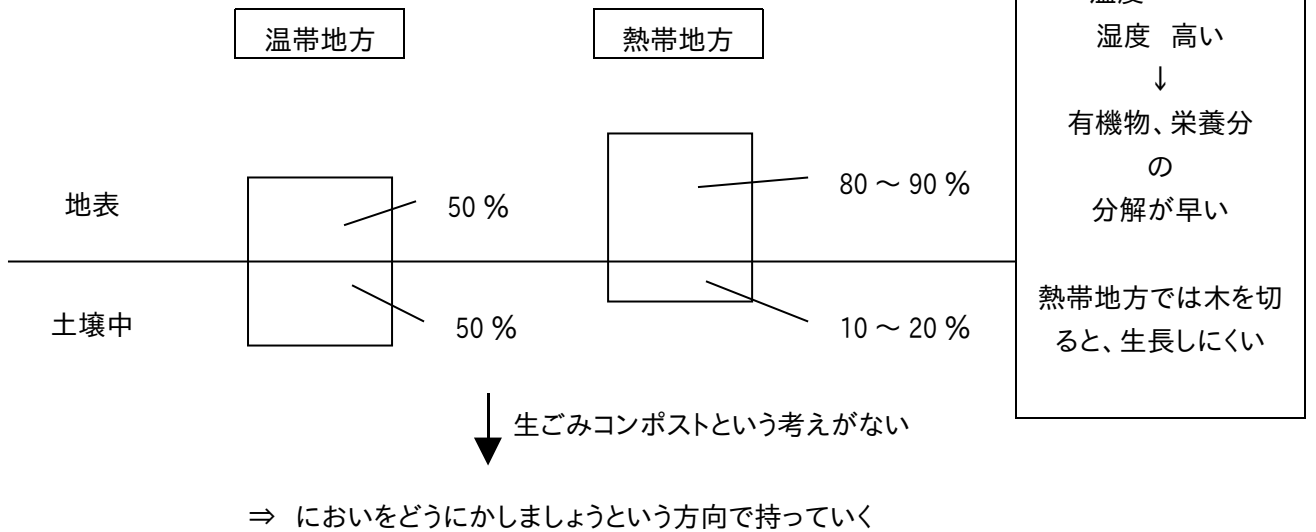
+微生物活動促進

+温度維持

+土中温度管理

→ 土中の肥沃度が高まる

土中の有機物、栄養分構成



マメ科植物 & レモングラス

窒素固定

緑肥

家畜のえさ

土壌流出の防止

作物の相互作用増長

あぜ道をうまく利用する

除草剤をまくとあぜがぐわんぐわんになる

魚池、桑園

桑はあまり虫がつかないので、除虫、防虫剤として使えないか？

お茶にする: 利尿作用があってよい

家畜のえさ: バリバリ食うのでよい

アイガモ農法の利点

- ・ 除草
- ・ 水かき
- ・ 虫取り
- ・ 糞肥料
- ・ カモ接触による稲の成長
- ・ 鶏肉

食品リサイクル法により

- ・ 食べ物ゴミ(料亭などから出る)のリサイクル
- ・ 米ぬかとまぶして
- ・ 乳酸発酵させる
- ・ めちゃめちゃ食う

→ カモ、豚の飼料用として  
(牛と鶏は食わないらしい)

除草が一番ネック

除草 か マルチ草か？

A  
自然農法

B  
近代化農法

EM 菌 (パテントがあるので、お金がかかる (EM の総本山タイにある)  
えひめの菌 (お金がかからない、農業試験場に出している)

タイ: 世界の胃袋

いいものを使う環境がある

無機 ⇔ 有機

東海大学

片野先生の言葉

「天⇔地からくり」

ぼかし、世界共通語

→ 5 年くらいやるとできなくなる

今までやればできるという感覚でやっていた。

中嶋農法 ← 中嶋とどむさん (玉名の人) 本の中で既に言っていた

ぼかしだけやっても実は・・・

- ・ ミネラル
- ・ 炭素、窒素必要

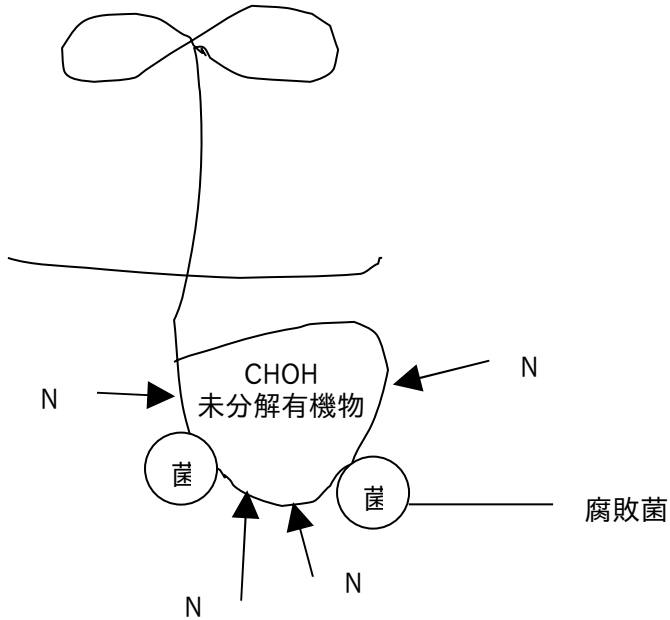
中嶋さんの考えを引き継いで

小岩井さん (Japan -----) が系統だててやっている

1970年代

ハンターという人アグリフォレストという概念を提唱

未分解有機物の害



休憩

おやつ

- ・ 麻生さん手作りお菓子
- ・ 常富さんお土産
- ・ 山口さん梨

15:40~

## ■ 堆肥づくり

堆肥づくりの基本 3 点

目標とする種菌をできるだけ多く保持する

-----  
保肥力

・ CEC:Cation Exchange Capacity (陽イオン交換能力)

・ 土づくりの要素(物理性、生物性、化学性)

3つの関連性

肥料

どんな微生物がいるか

水はけ

土壌のかたまりやすさなど

1 g の中に

1 億匹

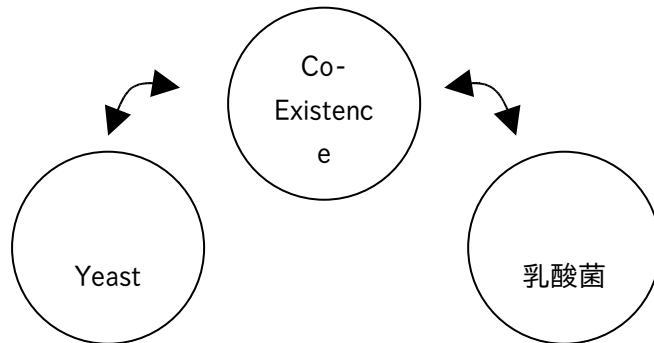
↓

善玉菌のみ集めたのが  
えひめAI菌

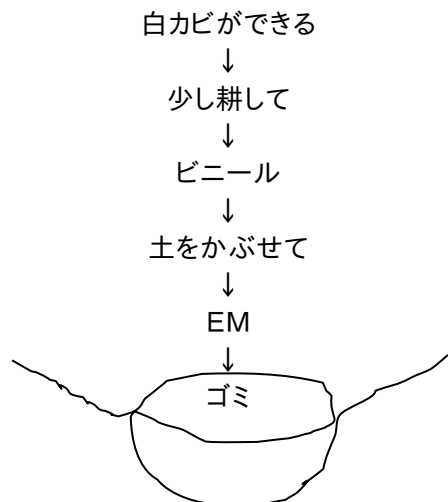
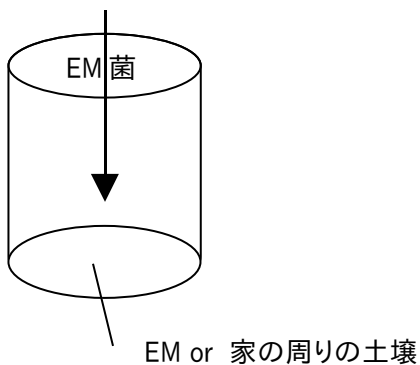
用途

- ・ 家畜の畜舎の掃除
- ・ やさいごみのコンポスト化
- ・ 大きな魚がとれる
- ・ などなどいろいろ

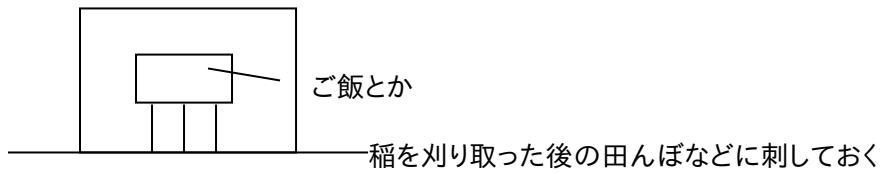
Photosynthetic Bacteria: 光合成菌



How to stock



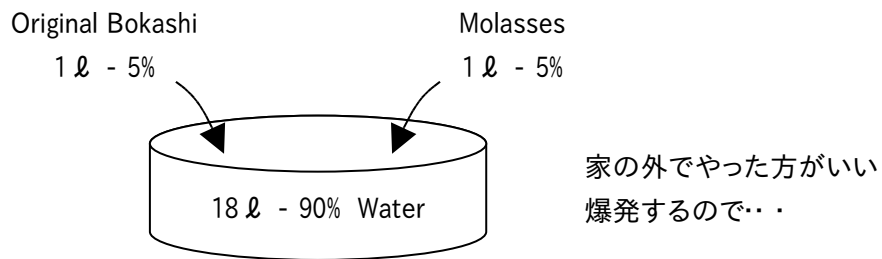
○ 有用菌の採取の仕方(納豆菌)



○ 乳酸菌

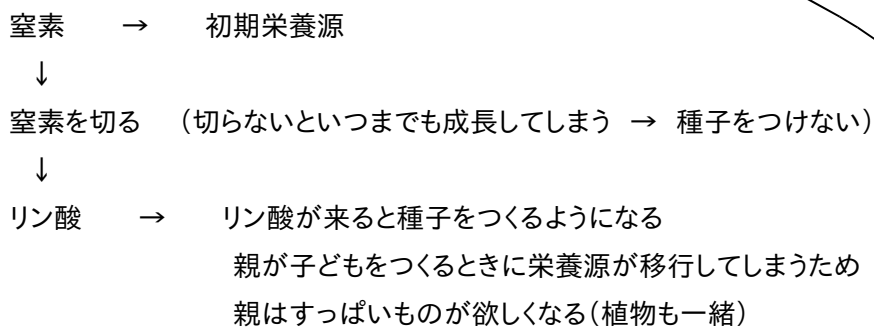
牛乳 & 米のとぎ汁  
36°Cでほっぽとく

○ えひめAI菌のつくり方



増やし方

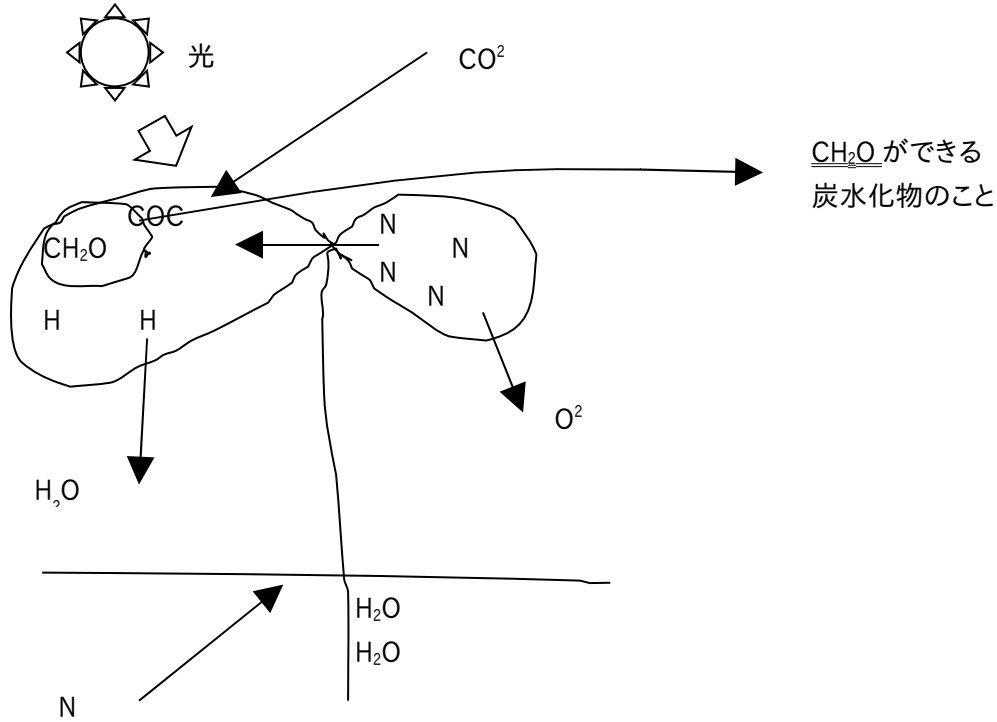
BA seed 60 cc	1%	
Molasses 60 cc	1%	→
Water 6ℓ	100%	



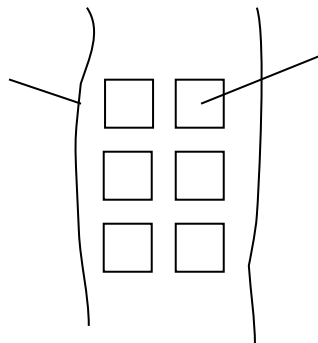
切り換えが必要

小岩井さんの本から

科学的有機栽培



セルロース  
CHO



細胞  
CHO N

栄養源は

- ・セルロース(骨格の形成)
- ・細胞(成長)

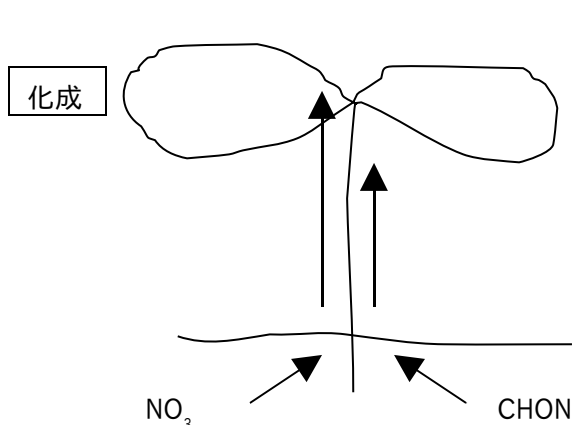
に分かれていく。窒素は成長に使われる。

・ 有機体窒素(アミノ酸)

・ ペプチド

→ 植物、実は吸収できている。

大豆の煮汁や魚かくの煮汁には多く含まれているのでよい



化成だと

雨が降ると害虫がつきやすい、  
簡単に分解するため、吸収されやすく、  
葉にたまりやすい。

有機だと

分解ゆっくり。

初期成長で細胞と細胞壁(セルロース)に  
分けられる。

液肥の状態だと

アミノ酸、ペプチド吸収しやすい

↓

それをやっているのが永田農法

↓

ただ、ミネラルが少ない

↓

牡蠣がら、にがり(×300倍希釈)などで  
カルシウム、マグネシウム(苦土)、ミネラルを加える。

同じ有機の表示でも野菜の中身が違い、

どんな栄養源、ミネラルで作られているか？

カルシウムがあると骨格をきちんと作られる。

→買った後でも持ちがいい(カルシウムが不足していると溶ける野菜に…)

#### 質問タイム

深:EMで作った肥料を畑に入れる時30cm掘って入れている。お話では10~20cmだったが、大丈夫か？

→1次発酵がきちんと行われていれば大丈夫。浅くする意味は発酵が不十分な状態で肥料を入れてもガスが抜けやすく、1次発酵を入れていから行うようなもの。

EMの簡単な使い方

-レンゲ、菜種など緑肥をする。

-すき込む前に倒す

-EMをまぶす

-一緒にすき込む

-白カビができてくる(放線菌)

設:1次処理と2次処理の違いは？

→1次処理は簡易処理

設:EMを利用するとレンゲなどの窒素固定をする植物でなくてもOK？

→EMと緑肥の組み合わせ

## ハウス

雨が降らない、

雨に溶け込み地上に落ちてくる空気中の有機物を得ることができない。

さなぐり(お祭り)

太鼓をたたくと雨が降る

↓

- ・ 田んぼに雨を降らせてくれる雷が鳴る
- ・ 稲の妻の稲妻が鳴る

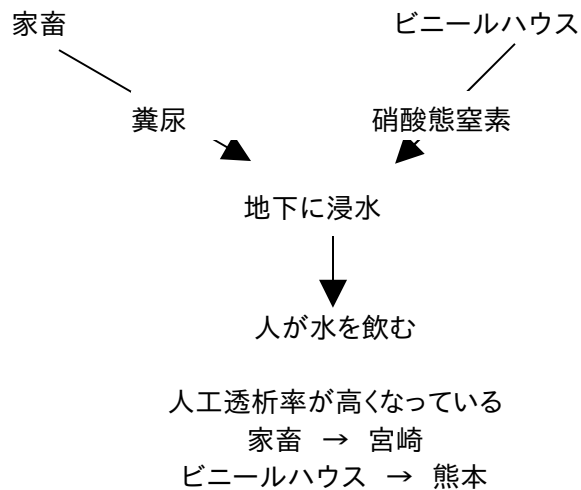
↓

空気中の窒素分が雨とともに降ってくる。

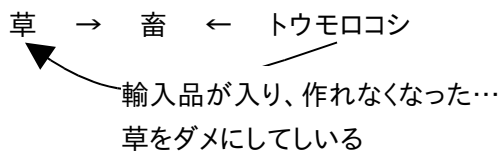
## 物理性の改善

ようは根が張りやすいかどうか！

## 硝酸態窒素と家畜の関係



昔 有畜農

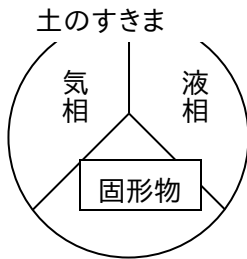


現在、トウモロコシはアメリカから飼料用として輸入されている。

港で魚かすを混ぜることで、飼料用にする

DVD 上映

物理性の改善方法 実例



お風呂:白鷺荘

夕食:ちゃぶ台に

一旦公民館に戻り

◎ 設楽さん講義

■ タイトル 「コミュニティーガーデンのデザインと役割」

21:00～

パーマカルチャーが目指していること

パーマカルチャーを通して何をしたいのか？

何をしようとしているのか？

先にあるものは？

1つ言えること…新しい未来を作ろうとしている

今 30～50 代の人たち、子どもの時新しい未来を描いていた

今 20 代の人たち、憶えていない

フーコ 「性・真理」から引用

変わっていくものを抑えようとする → 抑圧が働く

↓

そこから解放 改革へ

設:いろんなものからの自由を目指している、

自分たちのしたいことができる

やりたいことができる

自由とは？

## 自由の諸実践

自由というものを自らの手で作っていく

今までにない新しいものを獲得する自由、それを

武: 思い描く方向→PC 近道

設: その方向とは？

武: それが分からないと道に迷いますよね、

深: 社会が行き詰っている

→PC に出会って、自分の中のしがらみをとれてきた

解放 → 新しい~~~~~

麻: 自分がどこにいて、何で生きているのか？知りたい。

それを知るわかりやすい方法が PC

体験などを通して実感できる

梅: お金に頼らず自分の力で生きられる

野: PC は方法論

PC を残していきたいのであれば、農業から逸脱しない方が

PC だけじゃだめ

生活まで落とし込む必要がある

た: 個人、団体の土台

実践しているという人の話を聞いてみても、中途半端だなと感じることが・・・

自分が実践することで、自分の行動、話に説得力を持たせたい

徳: 昭和 20 年代 省エネルギー、オーガニックだった

↓

理想

アメリカ

↑

壊してきた世代

設: 今壊してきたものを元に戻そうとするのはどう思うのか？

徳: いいと思う。

当時より、より快適な 20 年代、30 年代になりそう

小: 経済力より、生活力をつけたい

波: 総合的な全体観

主体は自分 専門家に頼らない  
コントロールされるのではなく、自分でコントロールする  
自分で生きる力、自信がついてきた

馬: 昔、人は、牛、馬や自然と一体化していた

すべてのものと一体化したい

福: PC の持続可能という言葉にひかれ

実践し始めたことで、自分でもできるじゃないかという希望観  
自己肯定、自己実現、生きていく方法を見つけられる

井: 自然と調和した暮らしを実現する手段

長: 自分の幸せのための手段

やりたかった料理ができるようになって → 現実を知った  
たくさんの犠牲の上で自分の幸せが成り立っていることを知った。  
他に犠牲をつくらない、循環する → PC

常: 2001 年 9.11 で環境、平和に

→ 経済システムからの脱却  
人間が人間らしく  
家族が家族らしく  
共同体が共同体らしく  
相互扶助の関係

山: 家族をどうにかサバイバルさせたい

そのためには自分の周りもサバイバルさせないといけない  
お金からの脱却  
家族や仲間と過ごす時間を大事にしたい

共通点

- ・ 方法

- ・ 自分
- ・ お金からの脱却
- ・ 生活、生きる
- ・ 農業
- ・ 自然

フーコからの引用

人間が人間らしかった時代、それはギリシャ時代

自己への配慮 を行っていた

9月28日(日)

今回はみなさんのんびり起床

7:00～

農作業

マンダラガーデンに秋野菜の苗移植、種まき

#### ■ タイトル「農場デザインの基本」

9:30～

農をされていて何を感じたか？

ー 農とは何か？

藤野のスタッフや農をやりたいと来る人たちの中でも、始めて数カ月したらやめてしまえ。。

農を始めて、農作業をしている時何を感じたか？

常:太陽の恵み

井:収穫するとき生かされていると感じる

深:土を触るのが気持ちいい

徳:努力に対する成果が報われる

面倒くさい ー 雑草

深:手をかけないとだめだな

麻:皆ですと楽しい、一人でするときもいろいろ考えてよい  
長:手をかけないと  
深:汗を流すと風が気持ちいい  
    :蚊が来る  
    ビールがうまい  
山:種をまいて出来上がったときを想像するとワクワクする

ありがたみ  
生かされているという実感

機械でやると  
ひとりでやっちゃう、できちゃう  
ありがたみ、生かされているという実感があまり感じない

農で得られる実感を、  
嫌なところは改善しつつ、続けていく

農場  
・ なくてはならない存在にしていくか  
・ 行きたくなる場であるか

農とは何？農(農場)に求めるもの？次に何を求めるか？

深:食べ物(よい食べ物つくる)  
徳:健康(体を動かす)  
常:生産をするという充足感  
井:疲れている時でも、行くと逆にとれる  
    癒し、エネルギー  
長:自然に生かされているという実感  
山:季節感  
深:人とのつながり  
波:循環—ごみのない生活  
設:居たら気持ちいい

害虫がない

常:手入れが少なくて済む

山:ペットが来ない

設:水をためるところ

山:作業小屋

福:大体出ていることを

波:安心感

武:食育、心を育む

設:こういうことができると感じている？

→ 感じている

それぞれについて、具体例をあげると

農場で作りたい物

- ・ 果物
- ・ 野菜
- ・ 米
- ・ 花
- ・ ハーブ
- ・ 卵

体を動かす農場とは

どんな工夫や、体を動かす？

波:作業の合間に、終わった後に体を緩める

昼寝の場

生産を行う充足感

- ・ 収穫する時にたくさん作りすぎない

昔:つくって → 収穫して → 売る → やっと充足感を感じる

今:つくって → 充足感を感じる 売るまでしたい人はあまりいないのかな・・・

充足となる、無駄のない農場

常:自分の根本となるライフスタイルを変える。農場を生活の中心に。

そうしないと生産の喜びは感じない。

徳:複合経営 — 鶏でやっている。余剰産物の処理

長:役割分担

それぞれが得意なことで補う

現代 → 小さい、身の丈に合った広さの農場があればいい・・・

いやし

山:水、せせらぎ

井:草

虫(蜜蜂は益虫)

麻:空気、ちょっとしっとりした ← そのためにはいい土をつくる

設:いい土

いい土を作るには?

長:ミネラル

設:たい肥

山:かたち(自然の形)、全体像

麻:花

エネルギーを生み出すためには?

常:太陽光、風、光

4大元素

山:バイオガス装置

自然に生かされている実感

常:食べる — 特に果樹

山:循環が見える → 水辺、鳥が来る

麻:自然の要素 → 微気象をつくる

季節感

・ 花

・ 季節の野菜

人とのつながり

深:共同の作業場

長:休憩場所

波: イベント

こかげ

徳: 井戸

設: ベンチ、向かい合って座る

ファイアースペース

循環

- ・ コンポスト
- ・ 鶏
- ・ 水の循環
- ・ 池

蚊を少なくする

深: 蛙が住める

山: 水を循環

風力揚水機があれば作り出せる

小川(水の流れ)

手入れが少なくて済む

山: 分厚いマルチ

↓

コオロギが隠れる → コオロギが繁殖  
芽を食べる

PC は食べられてもいい…？

→ 真剣に作物を育てる気持ちが薄い → 今後これを持たなければいけない

山: 密植

コンパニオンプランツ

ペットが来ない

設: 柵

花を植える

山: 鳥をおく

設: 風間を流す

安心感

山: 収穫

設: 収穫をできるとは？

山: お腹が満たされる

: 農薬を使わずに収益を上げる

: 住居の近く

安心感を感じれる場所とは？

: 人が集まる

麻: 日当たりがいい

梅: 人が集まり、こころおきなく話せる

井: 人通りがあまりない

水を貯める

山: 土の中、雨水タンク

設: 木、池、素焼のつぼ(水を入れておくと徐々に水が浸透していく) → 2~3日離れても大丈夫

食育、心を育む

山: イラストの説明板 → 説明板非常に大事

深: そこでとれたものを出せる。キッチン、レストラン

各項目について、自分で割り出していく

一つひとつ出していくという作業

形にしていく

11:25~11:40

休憩

11:40~空家の散策

pcnqの拠点候補

農場と一体化

体の一部として

農場の中であらゆるものをまかなえる

自然農法 : 長野、松本

世界9世紀協会

農法: 自分の価値観にあったものを選択

## ■ タイトル「コミュニティガーデン」

都市はどんな空間？

波: 人が多い

深: 人口密集

都市はどうしてできた？

山: 物を交換する

都市はもともとまつり事(政事、祭事)を行う場所だった。(都の市)  
常駐する場所ではなかった。

都市 ⇔ ひなびた

ハレ 平穏、日常的に物事が進む

いつからか都市は常駐の場所になった

一番最初の年: ジェリコ(パレスチナのあたり)

都市と言ったらどんなことを思い浮かべる？

- ・ 空気が悪い
- ・ 緑が少ない

PC は田舎暮らしではなく、都市を変えていくのが PC の  
アーバンパーマカルチャーは初めて種をまいて育てている最中

-----  
お昼をはさんで

13:50～

スライドを見ながら

都市・・・人間がつくった

- ・ 均一化
- ・ 多様性

莫大なエネルギーが消費される空間

ニューヨーク

ダウタウン・・・1960年～70年代スラム化した

↓

グリーンゲリラ

LIZ CHRISTY

↓

復活させるために、コミュニティガーデンが作られた  
多くの人たちが集ってくる、自然の豊かさを感じれる空間

LIZ CHRISTY GARDEN

市からNPOに委託

GARDENとの共同運営

市民が生ゴミを持ってきてコンポスト化

都市で自然と触れ合う空間をつくる → 都市は非人間的ではなく

このいい空間に対して自分は何ができるのか？

PCはいい空間をつくるのがある意味目的

人間が人間に戻れる空間

本来の人間のよさが人間と結びついて発揮される

CLINTON COMMUNITY GARDEN

最初にNY市で市長を読んだ

街は最初反対したが、認められたガーデン

コミュニティガーデン

この1つ目が成功したから今増えている(いいコミュニティガーデンだったから)

今だいたいNYに1000くらいある

NPO green thumb

LIZなどと garden つくりしてきた団体

カナダのガーデンで出会ったおもしろい人の話  
green star がこれからは活躍する

LIZ CHRISTY GARDEN

- ・ 参加者の人たちがデザインしている
- ・ 1坪の貸し出しもある
- ・ NYの原生種を守っている場所でもある

コミュニティガーデンは  
非人間的な空間に人間性を取り戻す空間でもある。

カナダ、バンクーバー:世界一住みやすい場所  
コミュニティガーデンが多い  
コミュニティガーデンを教育の場にした。

都市は多くの資源がある  
知恵と資源、集積の場所

子供たちが中心でやっているガーデンもある

やすらぎを感じる、愛情を注げる場所

-----  
○ 「コミュニティガーデンに求められること」

深:やすらぎ

井:つながり

長:景観(美しい)

深:循環

野:象徴(シンボル)

徳:あんぜん

具体的に上げると

#### やすらぎ

- ・ ベンチ
- ・ 温泉
- ・ 散歩道
- ・ 花壇
- ・ 木陰

#### つながり

- ・ 休憩所
- ・ 鍵
- ・ 農園
- ・ コンポスト
- ・ 連絡ボード
- ・ 農器具
- ・ 道具小屋

#### 美しい景観

- ・ 花
- ・ 門
- ・ 池
- ・ 起伏
- ・ 粒

#### 循環

- ・ コンポスト
- ・ 雨水タンク
- ・ 廃棄物の再利用

#### 象徴

- ・ 名前
- ・ 壁画

#### 安全

- ・ フェンス
- ・ 広場ステージ
- ・ 通路

## 質問タイム

長:コミュニティガーデン、はじめの一步は誰かが始めた？

設:そう。リズなどが

田舎でやってもあまり意味がない、、都市でやってはじめて

深:NYのcommunity gardenは公開と非公開しているところがある。

設:あまり公開していない

山:問題点は？

設:維持・管理

15:10～

ふりかえり

常:野口さんの話、まだ消化しきれいていないので考えたい

設楽さんの農とは何かの？と問いかけ、気持が高くなった

長:PCを学んでまだ神戸に帰れないと思った。

スライドを見ながら、公園(地元の)をガーデンにしたい

井:畑作業、自然に任せたらいいと思っていたが、思い直した

福:知人の畑をPC的に不耕起でやっている。チャレンジしたい

現代のガーデンをいろいろな所につくりたい。方法をきちんと学び

波:線と点を面にして、世の中を変えていきたい、動きをつくりたい

みんなでやろう！

徳:今回のテーマが思い描いていたのとは違い、、

畑やガーデンを都市の人たちがやるのは浅はかなことと思っていたが、ちゃんとデザインの方法があって・・・

野:設楽さんの講義、安心感を感じた

ガーデンはプライベートなものが大事にされ

梅:もっともっと美しい景色をつくっていききたい。そのためにPCをもっと勉強したい

麻:野口さんの話、いろいろ知って、知らないより知った方がいい、自分の中で消化して

所々でてきた話がおもしろかった、素人の乱、グリーンゲリラ

勉強するだけでなく、動いていきたい

深:有機とPCは違う・・・

武:PCを広める活動を長崎でやりはじめた

知人の雑誌でPCについてのコラムを書き始めた。

人に伝える、もっときちんと勉強

山: 収穫をしないスタッフ、まさに自分のことだなと、  
収穫して売るまでやりたいという気持ちに

設: 久しぶりにみなさんに会えてよかった。

PC これまで10年やってきて、今、それから一步超えたい気持ちになっている

決まったものを伝えるだけでなく、

一緒に考えていく、作っていくことをやっていきたい